発刊によせて

新しい時代に対応する「小笠の教育」

小笠教育研究協会会長　澤﨑　淳一

今年も小笠教育研究協会の研究集録「小笠の教育」第70集が、会員各位の研究意欲と充実した教育実践により発刊できますことに心より感謝いたします。

本研究協会は、小笠３市50校の小中学校の教職員（約1000名）によって組織され、まさに地域の教育を担う組織となっています。各研究部は、部長・副部長・主任研究委員等を中心に、教育実践を通し自らの専門性を高め、資質の向上を目指しています。特に一斉研究報告会は、授業実践等の成果や課題の共有の場として位置づけられてきました。

しかし、令和元年度末に始まった新型コロナウィルス感染症拡大により本会の活動は大きく影響を受け、今年度もコロナ禍に対応した方法をとりながらの活動となりました。以下に、本年度の主な活動を紹介します。

６月の主任研究委員研修会は、委員による実践報告会としました。原野谷中学校田林昌子教諭他６名が昨年度の取組を報告をしてくださいました。

８月の教育講演会は今年もリモートでの開催。講師は木村泰子氏（大阪市立大空小学校元校長）。演題は『みんなの学校が教えてくれたこと』。すべての子どもの学習権を保障するという理念のもと設立された大空小学校での経験を紹介してくださいました。

11月の一斉研究報告会（生徒指導は10月）は、各研究部が「コロナ対応」の方法で実施。集合形式、会場校内でのオンライン、各校へのオンラインなどの方法を考え、より多くの方の参加が可能になるよう工夫してくださいました。「コロナ対応」と言葉で言うのは簡単ですが、新しい試みにはその都度様々な問題が生じ、随分苦労されてきたことをあちらこちらで聞きました。

「小笠地区小中学校総合作品展（いきにこ作品展）」と「小笠の文集（草ぶえ・秀峰）」は現在休止状態にあります。どちらも長い歴史をもつものですが、一定の役割を終えたとして今年度末をもって事業終了の見通しとなっています。

年度末に発刊する「小笠の教育」は、今年度の各研究部の取組をまとめたものです。コロナ禍にあっての足跡として手にしていただければと思います。そして、来年度こそコロナは消え、穏やかな日々の中で研究活動ができるようになっていることを切に願います。

終わりに、小笠教育研究協会の活動に対し、御指導、御支援を賜りました掛川・菊川・御前崎の３市及び各市教育委員会、小笠校長会、小笠教育会館、小笠地区教育用品その他各関係団体の皆様に心よりお礼申し上げます。

主任研究委員研修会（６月）

一斉研　特活部（11月）

一斉研　事務部（11月）